

新しいまちづくりに向かって

三笠市長 西城 賢策

市民の皆さん、あけましておめでとうございます。

皆さんにおかれましては、希望に満ちた輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、日ごろから市政に対する温かいご支援とご協力をいただき心から厚くお礼申し上げます。

私は、皆さんから2期目のご信託をいただいてから2年を経過し、任期も折り返し地点を迎ようとしています。

昨年は、高校生レストランのすぐ隣に三笠市文化芸術振興促進施設 Ciel（シエル）を開館いたしました。小さな美術館をコンセプトに、本市にゆかりのある芸術家の作品を展示し、三笠市の文化芸術を広く発信するための施設です。「食」を楽しみ「芸術」に触れ、新たな活力となるような場とし、高校生レストランを起点に明るいまちを創り上げていきたいと考えています。

さて、昨年は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により様々な変化を求められた1年となったと思います。改めて「普通」の日常の尊さに思いを致すとともに、日常を取り戻すため、感染防止策の徹底と、これを見据えた社会経済の両輪を動かすことが大事だと考えています。

本市においても、新型コロナウイルスによって、地域経済に大きな影響が生じており、また、様々な行事や地域活動が中止となるなど、人との絆やふれあいを創出する貴重な機会が失われていきました。このような逆境の時こそ、市民の皆さんの安心に繋がるような対策として市立病院において、いち早くPCR検査の体制を整えていただき、感染症対策をしっかりと行うとともに、プレミアム商品券の発行など市内経済の底上げを行ってまいりました。今後も市民の皆さんが安心できるような対策を講じてまいります。

また、課題となっております「養豚場の臭気問題」については、早期解決に努めているところでございますが、事業者から大規模改修や移転を検討しているとの申し出もありましたので、今後、事業者とも協議を進めていきたいと考えています。また、「市立病院の運営」については、職員、市民、団体、議会議論を重ねたうえで、方向性を定めていきたいと考えています。

今年の干支は「ウシ」です。ウシ年は忍耐強く課題に取り組み、発展の芽が出る年になると言われています。

その発展の芽として、地下ガス化の研究について、室蘭工業大学と連携し、取り組みを重ねておりますが、昨今、国際的に脱炭素化が進んでおり、環境に配慮したエネルギーとして、水素の活用が注目されております。このことを受け、地

下ガス化で発生する水素の活用に力を入れ、新エネルギー事業の実用化を目指し、まちの活性化の起爆剤となるように進めていきたいと考えております。これまでの課題にしっかりと向き合うとともに、限られた財政状況で何をすべきか、今こそ私がまちづくりの原点と考えている市益、市民益を基本に行政判断を行い、まちづくりの新芽が芽吹き、花咲く1年となるよう頑張っていきたいと思っております。

今年「市来知村」が明治15年に誕生してから140年という記念すべき年です。先人の歴史を引き継ぎながら明るい未来を目指すまちとして、節目の年を皆さんと共に祝いしたいと思っております。

市民の皆さんの更なるご理解とご協力をお願いするとともに、本年が三笠市にとりましても、市民の皆さんにとりましても、夢と希望に溢れる素晴らしい年となりますよう祈念し、年頭のごあいさついたします。

(広報みかさ令和3年1月号に掲載したものです。)

